

ちよつといひ話

～和を以って尊し～

聖徳太子の「17条の憲法」には和を以って貴しと為し、第1条の冒頭に出てきます。私は8月27日に夢を見ました。大企業の社長に招かれて社員に訓示をする夢です。その話のタイトルが「和を以って尊し」でした。和の働きを以って、尊しとなる、敬の形で終わる事が出来れば全てに良し、と言う事でしょう。和があれば何でも良いと言う事ではありません。悪に染まって和合しても結果は尊しにはなりません。第51号「和合」、第61号「恩」を参照。

和はどの様に使われてきたか、一例を挙げてみますと、昔は日本の事を大和の国と呼びました。和は和服、和風、和楽器、等日本の総称として使われてもいます。又、法然上人は昭和天皇より和順と言う諡号しごうを戴いています。「無量壽経」には天下和順てんげわじゅんと書いてあります。708年に日本で初めて鑄造された銅貨が和同開珎わどうかいちんです。字は違いますが後漢の光武帝より送られた金印に漢委奴国王かんのわのなのこくおう（漢委和奴国王印）とあり、福岡は志賀島しかのしまにて見つかっています。礼記らいぎに天地和同とありますし、色々なところで和は重要視されています。次に

和と言えば平和をイメージされる方が多いと思います。平和とは全てに争いの無い社会、天地和同、当然の事です。しかしそれだけではありません。

皆さん、まず各家庭を見て下さい。夫婦の和合は如何ですか？離婚して国民の税金を使っていませんか、結婚は自己の責任ですよ。片親になれば、即ち不具合です。親子の関係は如何ですか、子宝になっていきますか。兄弟姉妹は如何ですか？親の相続等^{いさか}諍い無く^{あいわ}相和していませんか。嫁姑（舅）仲良く一緒に生活出来てますか？別居が当たり前、残った遺産は戴きますでは勝手すぎて不具合です。懸かるが故に、まず各家庭においての**和合、調和**がとれる生活が大事です。そして地域社会の**和**、国の**和**と展開していけば良いかと思えます。道徳が行き渡り、悪とか憎しみといった感情を逆なでさせる様な行動が無い社会「**和を以って尊し**」。即ち、徳川家康が提唱されました^{ごんぐじょうど}**欣求浄土**でしょう。その国とは仏教的に言えば**極楽国**となります。考えてみますと今生活している世界は仮の宿なんだ、と思えば気が楽です。と言うのも人間死ぬ時にはたとえ100億円あっても6文（古銭）しかいらず。立派な豪邸があっても、ほとんどの人は病院で死に、小さな棺桶に入れられる。忘れなさんな重要なのは**魂**です。悲しいかな時には自分と共に家を焼く方もみえます。自殺でしょうか、不和です。それでも子供の為にといわれる方は葬式の費用ぐらいを残しましょう。第41号「ためらい」を参照。

人の一生は「**ちよつといい話**」を参考に**和を以って尊く終わらせ極楽に往生させて戴きましょう**。

円満成就

善入院油掛地藏尊